

地域福祉ボランティア養成講座（第2回）

～ある家族の小さな物語～（認知症が私たち親子にくれたもの）

母87歳、認知症。父95歳、初めての家事、認知症の母を介護しながら共に暮らす耳の遠い父。2人の姿を娘の視点で、泣きながら1200日間撮影し続けたドキュメンタリー作品。老いていくことは何か、家族とは何かを問うてくる。ひとりでも多くの人に観てもらいたい、感動作品です。どなたでもご覧いただけます。

入場料
無料

ぴあ映画 初日満足度1位 (22月3日ぴあ調べ)

文部科学省 特別選定映画

厚生労働省 推薦映画

認知症の母と耳の遠い父と離れ暮らす私

ぼけますから、

よろしくお願ひします。

ドキュメンタリー映画

広島県呉市。泣きながら撮った1200日の記録

監督・撮影・語り
ひとり娘 信友直子

プロデューサー：大島新 演出 共同プロデューサー：船田彰紀 橋本樹 山口浩史
編集：日見田 健 実務撮影：森 幸男 音響効果：金田智子 ライン編集：池田 翠 監音：宮本孝一
配給宣伝協力：ボレボレ中野 ウッキー・プロダクション 製作・配給：スタジオ・フジテレビ 関西テレビ
2018年/日本/カラー/102分/©「ぼけますから、よろしくお願ひします。」製作・配給委員会

www.bokemasu.com



赤い羽根共同募金による助成を受けて行っています



カメラを向け、初めて気づいた。 両親がお互いを思い合っているということ。

**母、87歳、認知症。
父、95歳、初めての家事。**

広島県呉市。この街で生まれ育った「私」(監督・信友直子)は、ドキュメンタリー制作に携わるテレビディレクター。18歳で大学進学のために上京して以来、40年近く東京暮らしを続けている。結婚もせず仕事に没頭するひとり娘を、両親は遠くから静かに見守っている。

そんな「私」に45歳の時、乳がんが見つかる。めそめそしてばかりの娘を、ユーモアたっぷりの愛情で支える母。母の助けで人生最大の危機を乗り越えた「私」は、父と母の記録を撮り始める。だが、ファイナダーを通し、「私」は少しずつ母の変化に気づき始めた…

病気に直面し苦悩する母。95歳で初めてリンゴの皮をむく父。仕事を捨て実家に

帰る決心がつかず揺れる「私」に父は言う。「(介護は)わしがやる。あんたはあんたの仕事をせい」。そして「私」は、両親の記録を撮ることが自分の使命だと思い始め—

**大反響のテレビドキュメンタリー、
待望の映画化。**

娘である「私」の視点から、認知症の患者を抱えた家族の内側を丹念に描いたドキュメンタリー。2016年9月にフジテレビ/関西テレビ「Mr.サンデー」で2週にわたり特集され、大反響を呼んだ。その後、継続取材を行い、2017年10月にBSフジで放送されると、視聴者から再放送の希望が殺到。本作は、その番組をもとに、追加取材と再編集を行った完全版である。娘として手をさしのべつつも、制作者としてのまなざしを愛する両親にまっすぐに向けた意欲作。



沼津は坂の多い町でもありますが、買い物をにも一苦労。撮影以来、父と母はずっとここで暮らし続けてきました。



ひとり娘
ドキュメンタリー監督
信友直子

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手掛ける。放送文化基金賞奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。



涙涙。椅子から立てないくらいの衝撃でした。(56歳女性)

いまだに涙がとまりません。
思いやりが人生を豊かにすること。
忘れずに生きていきたいです。(49歳女性)

まるでお家にお邪魔しているように。
心がキューっと苦しくなったり、
ぼっ、と心が温かくなったり。(29歳女性)

お三方の声のなんと優しいこと。
こんな優しさに満ちた声の響きを
聞いたことはありませんでした。(74歳女性)

番組にいただいた
感想の一部です

考えさせられます。夫婦とは家族とは老いるとは…
娘さんの泣きながらの撮影にもらい泣きました。(55歳女性)

地域福祉ボランティア養成講座 (第2回)

日時：8月1日(日) 会場：虹のプラザ「多目的ホール」

午前の部：開場午前9時30分、開演午前10時

午後の部：開場午後1時30分、開演午後2時

入場料：無料 整理券取り扱い：虹のプラザ事務室、2F社協事務所